

センターだより

保存版 特別号X [学習評価特集]

平成23年(2011)年3月8日発行
吹田市立教育センター
吹田市出口町2-1
TEL 06-6388-1455
FAX 06-6337-5412
メール s-educ@suita.ed.jp

新教育課程の本格実施に伴い、学習評価の改善も求められています。学習評価の意義・目的は、「結果の面から教育水準の向上を保障すること」と「学習評価を授業改善に生かす」ことです。学習評価が指導後のみに偏ったり、「評価のための評価」になったりしてはいませんか？今回のセンターだより特別号は、「新教育課程における学習評価」を特集します。

1 何がどうかわるの？

新教育課程における学習評価のポイント

基本的な考え方

- ①現在の評価を基本的に維持し、深化(目標準拠評価)
- ②新学習指導要領の改善事項を反映(学力の3要素との対応)
- ③学校・設置者の創意工夫を生かす(現場主義を重視)

「生きる力」をはぐくむ授業
につながる学習評価を！！

「観点別学習状況の評価」の変更点

《従来の観点》

『関心・意欲・態度』
『思考・判断』
『技能・表現』
『知識・理解』

《新指導要領での観点》

①『関心・意欲・態度』
②『思考・判断・表現』
③『技能』
④『知識・理解』

《学力の3要素》

・主体的に学習に取り組む態度
・課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
・基礎的・基本的な知識・技能

①「関心・意欲・態度」の評価について

- 評価は容易ではないと言う側面もあるが、我が国の子どもたちの課題であることもふまえ、より意識して指導に生かすため、継続
- 挙手・発言回数等の数量化した形式的な評価ではなく、具体的な内容に即して質的に評価

②「思考・判断・表現」の評価について

- 各教科の内容に即して思考・判断したこと、その内容を表現することを一体的に評価
- ※つまり、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考判断した過程や結果を言語活動を通して、児童生徒がどのように表出しているかを評価
 - ・作品のできばえだけでなく、制作過程を重視
 - ・子どもの説明、解釈、論述、討論などの言語活動を通じて評価
 - ・ポートフォリオ(学習の結果や進歩を示す作品などを入れたファイル)の活用
 - ・パフォーマンス評価(実技、レポート、発表、プレゼン、ディベート、試合等々)の実施
 - ・学習の振り返りを評価

今まで以上に思考力・判断力・表現力等を身につける授業の工夫が求められます。

③ 従来の「技能・表現」の表現のうち、

算数・数学:式やグラフに表す 理科:実験観察の過程・結果の記録整理
社会:調べたことをグラフや図表、作品にまとめる
体育・保健体育:ダンス「動きに変化を付けて即興的に表現」

『技能』として評価

● 芸術(音楽・図工・美術)に関する表現の能力評価→②創意工夫・発想・構想したりする能力の評価と

→ ③『技能』としての評価とに分けて評価

※表現すること全てが②「思考・判断・表現」で評価するわけではありません。

2 授業改善に結びつく評価のために 指導と評価の一体化

学校全体の「PDCAサイクル」によって、 学習評価を学級単位における授業改善に生かす 【Plan=計画→Do=実施→Check=点検→Action=改善】

学校全体で計画的に学習評価を進めることが、個々の教師の負担軽減にもつながります

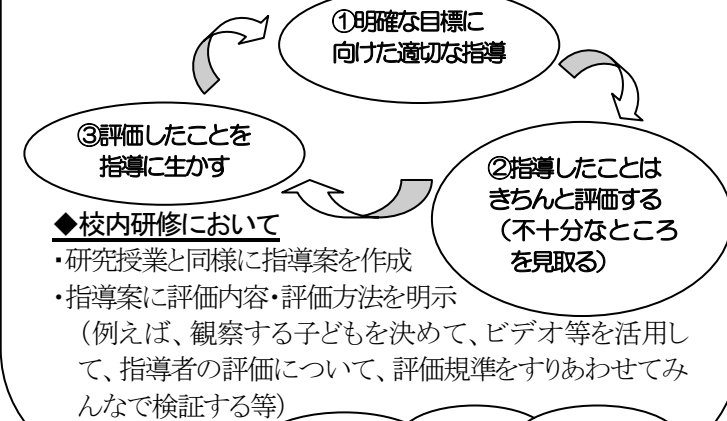


P: 年間指導計画・評価計画の作成

- ◇目標・ねらい及び指導の重点の明確化
- ◇各単元の評価規準の作成、評価場面と評価方法の検討
- ◇全教職員の協働により作成し、学校全体の共通理解を図る。

D: 授業実践・評価活動

- ◆**形成的評価の活用**
 - ・座席表の活用、机間指導
 - ・自己評価、相互評価(ペアやグループで)
 - ・指導したことに即して具体的によかったところをほめる。
 - ・学びの状況が不十分だと思われる子どもについては、指導方法を工夫



A: 教育課程・指導計画・評価計画の改善

- ◇総括された結果を次年度の指導の重点や指導計画・評価計画の改善に活用
- ◇学校教育自己診断の結果を活用する。

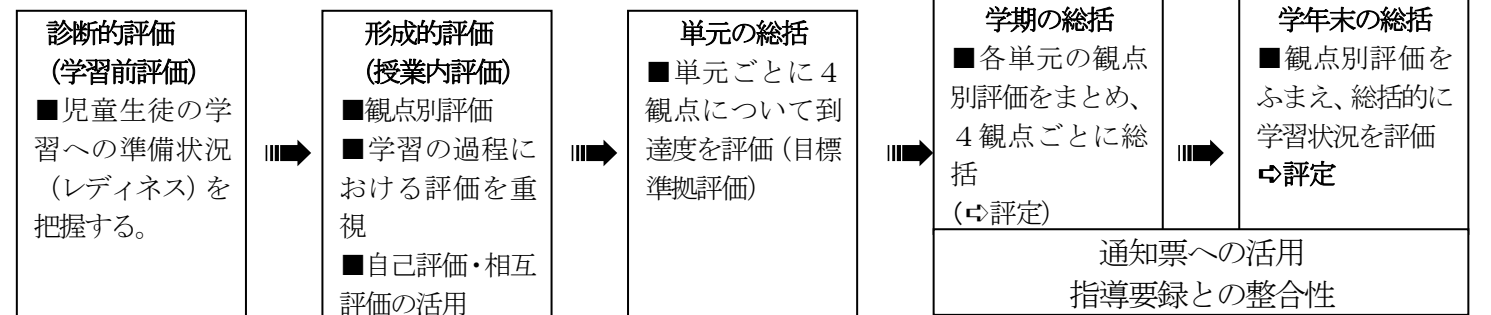
C: 評価結果の総括/指導計画等の評価

- ◇各観点は年間を通してバランスよく評価
- ◇学習状況の考察・分析と指導計画の点検

※毎時間の授業の中で、4観点全てを評価するのではなく、授業ごと・単元ごとに重点を決め、計画的に評価していくことも大切です。

《学習評価の基本的な流れ》

- ★「通知票」をつけることだけが評価ではありません。日々の授業内での評価を積み上げ、授業改善に生かすことが大切です！
- ★学習指導要領に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を着実に実施することが求められています。



障がいのある児童生徒にかかる学習評価の在り方～学習評価の基本的な考え方は同じ～

- 児童生徒の障がいの状態等を十分理解しつつ、一人ひとりの学習状況を一層ていねいに把握する工夫が必要
- 通常の学級に在籍する障がいのある児童生徒については、通級による指導の内容や、効果的と考えられる指導方法等を記述

3 どう評価すればいいの？ 各教科等の評価について



※観点の下線部は変更事項

国語

国語の評価はこう変わります！

- ①国語への関心・意欲・態度
- ⑤言語についての知識・理解・技能

基本的に
各単元で評価

- ②話す・聞く能力
- ③書く能力
- ④読む能力

単元のねらいに即して、重点を
おいている領域について評価

その活動で育む能力を明確にした言語活動を通して評価

つまり授業では…

- ・「文章の要約」→「目的や必要に応じて」自分の必要とする情報は何なのかを考えまとめることができる力を育てるような授業の工夫
- ・グループで意見をまとめる→結果だけでなく、話し合いのまとめ方などの過程を明確にするような発問を工夫
- ・スピーチ・説明→発表する姿だけでなく、話題・題材決定、構成などの過程を充実する授業の工夫

ここがポイント！ ※機械的に5観点列挙しない！

文言は変わらず
・新設された「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の評価は⑤。(各領域を通して指導)
・国語では、「基礎的・基本的な知識・技能」と「思考・判断・表現」を合わせて評価(②③④)
・①は「国語への」であることに留意

社会

社会科の評価はこう変わります！

- ①社会的事象への関心・意欲・態度
- ②社会的な思考・判断・表現
- ③(小)観察・資料活用の技能 (中)資料活用の技能
- ④社会的事象についての知識・理解

ここが変わった！

「表現」という文言が思考・判断と同じ観点へ。
これは、考えたことを記述したり説明したりといった言語活動にかかわる「表現」のこと。
観察結果や資料を活用してまとめたもの(社会科新聞、パンフレットなど)は、「観察・資料活用の技能」として評価する。

つまり授業では…

- ・子どもたちで解決すべき問題・課題を見だし考えたことを出し合いながら解決していく、問題解決型・追求型の授業を工夫していく必要がある。
- ・全体で交流する前に自力活動(自分で考えて表現する場)が必要
- ・これまで以上に個人の学習過程における思考・判断の記録が必要
- ・例えば、調べたことをもとに、根拠を示しながら自分の考えを伝え、討論する授業

算数／数学

算数・数学の評価はこう変わります！

- ①(小)算数への関心・意欲・態度 (中)数学への関心・意欲・態度
- ②(小)数学的な考え方 (中)数学的な見方や考え方
- ③(小)数量や図形についての技能 (中)数学的な技能
- ④(小)数量や図形についての知識・理解
(中)数量や図形などについての知識・理解

ここが変わった！

「表現・処理」が「技能」になった。
これは、数学の基本的な技能を評価する観点である。今回の改訂で「表現」は「数学的な(見方や)考え方」を評価するものとなった。これは、思考・判断したこととそれを表現する活動を一体的にとらえるものである。特に、この観点の評価では、言語活動の充実が求められている。

つまり授業では…

- ・思考力、判断力、表現力等を育成するため、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れる必要がある。

理科

理科の評価はこう変わります！

- ①自然事象への関心・意欲・態度
- ②科学的な思考・表現
- ③観察・実験の技能
- ④自然事象についての知識・理解

ここが変わった！

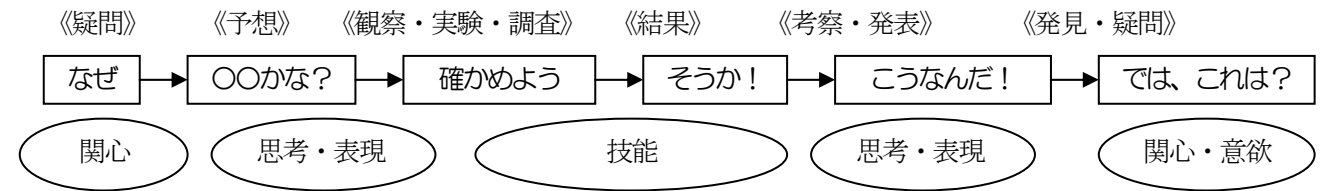
「表現」…「観察・実験の技能・表現」から「科学的な思考・表現」に

観察・実験の結果を考察(分析)し、解釈する力や導き出した自らの考えを表現する力を評価する。

観察・実験・調査の過程の記録や結果のまとめ・整理、さらに表やグラフにまとめることは「観察・実験の技能」として評価する。

つまり授業では…

- ・どのような観察・実験で確かめ(調べ)られるのかを考え、またその結果について予想したことを伝え合う。 → 見通し(目的意識)をもった観察・実験
- ・観察・実験の結果(情報)を考察(分析)し、自然事象についての規則性を見いだすとともに、自らの考えを発表し合う。 → 科学的な見方・考え方の育成



生活

生活の評価はこう変わります！

- ①生活への関心・意欲・態度
- ②活動や体験についての思考・表現
- ③身近な環境や自分についての気づき

ここがポイント！

文言は変わらず。
・活動や体験を一層充実させるため、気づきの質を高め、自然の不思議さや面白さを実感する活動を取り入れる。
・伝え合い交流する活動の充実
・安全教育や生命に関する教育の充実
・幼小の異年齢交流、幼小のスムーズな接続を生活科が担う。

つまり授業では…

- ・考えるための具体的な学習活動として、「見つける」「比べる」「たとえる」などの学習活動を行い、気づきの質を高める。
- ・活動や体験のあとに、言葉で情報を伝え合い、「生活や出来事の交流」をする。
- ・例えば、身近な自然や物を使って遊びにつかうものを工夫してつくることで、自然の不思議さに気付く学習活動や、生命の尊さを実感を通して学ぶという観点から、継続して動物の飼育を行い継続したふれあいをもつ活動など

音楽

音楽科の評価はこう変わります

- ①音楽への関心・意欲・態度
- ②音楽表現の創意工夫
- ③音楽表現の技能
- ④鑑賞の能力

ここが変わった！

表現の能力の評価について…技能(正しい音程で歌う・間違えなくて楽器を演奏する等)と、表現を創意工夫したり発想・構想したりする能力に関する観点とに分けて評価する

鑑賞の能力の評価について…「知識・理解」に関する観点と、自分なりに評価したり価値を考えたりする能力に関する観点とを一体的に評価する

つまり授業では…

- ・ねらいや手立てを明確にし、感性を高め、思考・判断し表現する一連の過程を大切に指導を行う。
- ・[共通事項]を指導計画に位置づけ、十分な指導が行われるよう表現及び鑑賞の活動を工夫する。
- ・(小)音楽づくり(中)創作や鑑賞の指導を充実し、学習を深める手段・方策として言語活動を行う。

図画工作／美術

図画工作・美術の評価はこう変わります！

- ①(小)造形への関心・意欲・態度
(中)美術への関心・意欲・態度
- ②発想や構想の能力
- ③創造的な技能
- ④鑑賞の能力

ここがポイント！

文言は変わらず。
表現力を評価する場合、
② 表現を創意工夫したり
「発想・構想」したりする能力
③ 自分が思うように材料や道具を
使って工夫して表現する能力
観点を分けて評価する。

つまり授業では…

- ・今まで以上に学習のプロセスを重視し、評価は日常的に行うようにする。
- ・子ども同士が自分のアイデアやイメージ、感じたことを伝え合ったりする場をもつ。
- ・例えば、2人以上でアイデアを出し合いながらひとつのものを作り上げる活動や、表現活動の途中で友だちに構想を説明したり、アドバイスをもらって参考にしたりする学習

家庭／技術・家庭

家庭・技術家庭の評価はこう変わります！

- ①(小)家庭生活への関心・意欲・態度
(中)生活や技術への関心・意欲・態度
- ②(小)生活を創意工夫する能力
(中)生活を工夫し創造する能力
- ③生活の技能
- ④(小)家庭生活についての知識・理解
(中)生活や技術についての知識・理解

ここがポイント！

文言は変わらず。
「活用力」を重視。過程を含めて評価する。
必要な知識や技能を選び、目的に応じて組み合わせて
使い、実生活に生かす。
「思考力・判断力・表現力」の育成
言語活動の充実→②(小)生活を創意工夫する能力
(中)生活を工夫し創造する能力
指導内容によって、評価の観点を重点がある

つまり授業では…

- ・知識や技能を習得するだけの授業にとどまらず、それらを自分なりに工夫して「活用」したり、「探求(課題解決)」しながら必要な知識・技能を習得していくといった授業計画を立てる必要がある。
- ・生活の課題や技術的な課題を解決するために、言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法などについて、考えたり説明したりする学習活動の充実。例えば、目標を決めて今の生活の課題や技術的な課題を探り、工夫できることを調べたり考えたりして、実生活で実践してみる。



体育／保健体育

体育・保健体育の評価はこう変わります！

- ①運動や健康・安全への関心・意欲・態度
- ②運動や健康・安全についての思考・判断
- ③運動の技能
- ④(小)健康・安全についての知識・理解
(中)運動や健康・安全についての知識・理解

ここが変わった！

文言は変わらず。
小学校の表現運動における「…表したい感じを表現したり…」する場合の表現は、「技能」の観点で評価する。
指導内容の明確化が図られていることから、指導と評価の一体化がより求められる。
すべての児童生徒が、指導内容を身に付けられるよう、具体的な手だてが取られていることが必要
中学校の体育理論と保健分野は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3観点で評価

つまり授業では…

- ・例えば、小学校のボール運動において「簡易化されたゲーム」に取り組むことにより、それらの特性や魅力に十分触れながら、学習内容を身につけていけるよう配慮し、単元計画を踏まえた評価の重点化を図ることなどが考えられる。
- ・普段の学習の様子を観察する中で、自らの伸びを自覚できるような評価への姿勢を育む指導が大切である。
- ・言語活動の充実とともに、運動量の適切な確保のために、「技能」「態度」「知識」「思考・判断」のバランスが重要

外国語（英語）科

外国語（英語）科の評価はこう変わります！

- ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- ②外国語表現の能力
- ③外国語理解の能力
- ④言語や文化についての知識・理解

つまり授業では…

- ・小学校外国語活動で育まれた素地の上に、4技能をバランスよく育成すること。
- ・生徒が在籍していた小学校の外国語活動の授業において、どのような単語や表現を用いた活動が行われているかを把握する必要がある。
- ・4技能を総合的に育成し、統一的に活用できるコミュニケーション能力の育成と、文法の指導と言語活用を一体的に行うよう指導の改善を図ること。

ここが変わった！

「表現の能力」が「外国語表現の能力」に、「理解の能力」が「外国語理解の能力」になり、外国語を用いて行う活動に関わる能力に対する評価であることが明確にされた。

小学校で外国語活動が導入されたことから、評価の観点は、小・中の連続性に配慮して設定された。

小学校外国語活動

評価の基本

- 数値による評価、できたか否かによる評価はなじまない。
- 評価の観点に基づき、それに照らして文章による記述を行う。
※「～しようとしている」「～している」などの態度を評価する。

評価の観点と趣旨

- ①「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」→コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
- ②「外国語への慣れ親しみ」→活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
- ③「言語や文化に関する気付き」→外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方があることなどに気付いている。

各観点で何を見取るか

- ①「外国語を用いて、自分の言いたいことを、進んで積極的に伝えようとしているか」「相手の質問を積極的に聞こうとしているか」「挨拶や感謝の言葉が自然と出ているか」「笑顔でアイコンタクトをとりながら、コミュニケーションを続けているか。」等
- ②「英語を正確に聞き取れたか」「英語の表現が正しく言えたか」ではなく、「相手の言っていることを何となく理解し、不完全な英語であっても、他の表現方法で補いながら、自分の思いを伝えようとしているか」等
- ③「日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに関心しているか」「日本と外国との生活・習慣・行事等の違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付いたか」等

評価の進め方 ※指導計画の中に評価計画を入れる。

- ① 評価規準の設定→「英語ノート」の指導資料を参考に作成
- ② 評価方法→1) 観察法・・・子どものよい反応があったら、その瞬間、その場で、具体的にほめる
2) チェックリスト 3) 学習シートや作品 4) 自己評価・相互評価 4) 振り返りカード 5) アンケート
- ③ 授業中や授業後の評価を、児童の評価や指導法・指導計画の改善に生かす。

総合的な学習の時間

各学校において目標や内容を定め、創意工夫を生かした特色のある教育活動の展開

総合で求められているのは

例えばこんな評価観点が

- ①よりよく問題を解決する資質や能力
- ②学び方やものの考え方
- ③主体的、創意的、協同的に取り組む態度

- ①課題設定の能力
- ②情報収集の能力
- ③将来設計の能力
- ④社会参画の能力

- ①学習方法
- ②自分自身
- ③他者や地域とのかかわり

- ①関心・意欲・態度
- ②思考・判断・表現
- ③技能
- ④知識理解

つまり！

各校において独自の評価観点や評価規準を定めることが必要

評価資料は

観察記録、自己評価や相互評価を記した評価カード、レポートや作文ポスターなどの制作物、教師や外部関係者のコメントや学習記録のポートフォリオなど

ところで特別活動・道徳教育の評価ってどうしたらいいの？

特別活動における評価

特別活動の評価の観点については、各学校が的確なねらいを持って指導を展開するため、各学校で評価の観点を設定することになっています。評価にあたっては、集団の発達や変容を見取ること、活動の結果だけでなく、過程における努力や意欲、さらには子どもたちのよさや可能性、進歩の状況等を積極的に評価することが大切です。また、全教職員の連携協力による、幅広く継続的な評価が求められています。

特別活動 評価の3観点（例示）

- 「集団生活への関心・意欲・態度」
- 「集団の一員としての思考・判断・実践」
- 「集団生活や生活についての知識・理解・技能」

こんなことを大切に

- ・言語力の育成の観点から、発達段階に応じた話し合い活動の重視
- ・教師と児童・生徒、および児童・生徒相互の触れ合いを基盤とした活動

道徳教育における評価

道徳教育においては、単に行動の結果だけを評価するのではなく、学校生活のあらゆる場面で長期的な視点に立って児童・生徒の成長を見取ることが大切です。そして評価することの大きな意義は児童・生徒の更なる成長を支えるために、次の指導に生かすことにあります。評価は観点に基づき、観察や会話、作文、ノート、アンケートや、学校生活における具体的事例などを資料とし、広い視野から総合的に理解するために多くの教師からの評価や自己評価を用いることも、自らの成長を自覚しよりよい生き方をしていく意欲につながります。

道徳教育 評価の4観点は？

道徳的に望ましい感じ方・考え方

さまざまな場面での道徳的判断

「道徳的心情」

「道徳的判断力」

「道徳的实践意欲と態度」「道徳的習慣」

道徳的により良く生きていこうとする意志と態度

基本的生活習慣の定着

こんなことを大切に

- ・感動を覚えるような魅力的な教材の活用
- ・自分の考えを表現する機会を持ち、自らの考えを深め、成長できる指導

通知表はどうする？

通知表は、各学校ごとにその特色を生かして作成されるものです。次年度から本格実施が始まる小学校においては、既に通知表の検討を進めておられることでしょうか。また、中学校では、今、検討を始められたところでしょうか？平成21年度吹田市小中学校の通知表の現状を基に、検討のポイントを整理してみました。



通知表の役割は？

学校から保護者に児童生徒の学習状況を伝えるとともに、今後の指導方針を保護者と共有することです。
⇒ 学校から学習状況を伝えるだけでなく、保護者や児童生徒の考えを伝えられる工夫を考えてみてはどうでしょうか。例えば、**本人記述欄・家庭通信欄・自己評価欄**などの工夫を！
☆指導の過程と結果の要約を記録し、その後の指導と外部に対する証明の意味をもつ指導要録との整合性も求められます。

保護者の理解促進を図る

- 保護者の意識は？（平成21年度文部科学省委託調査結果より）
- 目標標準評価について知らない 約30%
 - 評価に先生の主観が入っているのではないかと不安がある 約38%
 - 学級や学年など集団の中で位置づけがわからず、入学選抜に向けて不安である 46%
 - 先生が一人ひとりの状況に目を向けてくれている 65%（前回調査 46%より上昇）

保護者へのアピールは、まだまだ必要なようです。

子どもをよく見てくれていると考えている人も増えています。

「こんな通知表では、成績がよくわからない。進学にも不安だわ・・・」

このような保護者の不安に対し、「単に知識・理解にとどまらず、**学力の3要素に基づき4つの観点で分析的にとらえる観点別評価を、各自が到達すべき目標に対し、どこまで達成できたかを見取る目標標準評価**によって行うことで、個々の子どもの学習状況がよくわかり、確実に学力を身につけるための今後の指導に生かすことができる。」という目標標準評価・観点別評価の趣旨とよさについて丁寧に説明し、理解を求めることが大切ではないでしょうか。

新教育課程の内容説明と同様に、目標標準評価・観点別評価・評価規準等について、保護者説明会や学校便り等で十分な周知・啓発を行う機会を作りましょう。また、通知表に「通知表の見方」「評価規準」について説明を載せることも効果的です。

保護者にわかりやすい評価の工夫

個々の子どもの学びをしっかりと見取る評価を！

学力をどうとらえ、学習状況をどのような観点で評価しているのかを明確に伝えることが必要です。平成21年度の吹田市の小学校通知表では、4観点を示した上で各教科の項目の記載がある学校と、教科の評価項目のみ示している学校がありました。保護者にも学習状況を4観点で評価していることをわかりやすく示す工夫が必要ではないでしょうか。

中学校の通知表では、必修教科において、評価の観点の記載はあるものの、観点別評価を実施していない学校（評定のみ）が多くありました。進路資料として相対的評価資料も作成しながら進めることは大変ですが、今回の改定の趣旨を踏まえ、観点別評価・目標標準評価をより明確に進めていく準備を始めましょう。

◆**観点別評価** ◆**目標標準評価の一層の推進を！** ◆**思考・判断・表現の過程の評価の工夫を！**

学習のめあて		試述	できた	評価
学 科 要 素	①あうみを揃ってかんざつをする。			
	②かんざつをもとに考えようとする。			
	③こん虫の体や育ち方がわかる。			
	④植物の体のつくりや育ち方がわかる。			
	⑤風やゴムのはたらきがわか			
関心・意欲・態度に自己評価欄				

算 数	進んで取り組む力	1	数量や図形の性質や関係を調べ、学習や生活に生かそうとする
	考える力	2	これまでに学習したことや絵・図・言葉を使って問題を考え、自分の考えを発表する
	表す力・まとめる力	3	たし算
		4	ひき算
		5	かけ算
		6	わり算
	わかる力	7	グラフや表をよみ、表す
		8	図形の性質がわかり、正しくかく

4 観点と教科の項目記載
「考える力」の評価の工夫(過程の重視)
算数「これまでに学習したことや絵・図・言葉を使って問題を考え、自分の考えを発表する。」